

出雲市中小企業景況調査結果（平田商工会議所管内）

今 期（2012年1－3月）の 概 要

調査期間 平成24年4月3日～4月16日

対象企業 調査対象企業数30社 回答率29社（回答率 96.7%）
内訳：建設業4社、製造業7社、卸売業1社、小売業9社、サービス業8社

概 況

○全業種の今期業況DIをみると、前期比で△50.0（前期調査△30.8）、前年同期比でも△53.8（前期調査△29.6）と、ともに2期連続でマイナス幅が拡大しています。来期業況見通しDIも、今期比で△54.2（前期調査△50.0）とマイナス幅が拡大しており、先行きへの不安が広がっていることがうかがえます。平田市の経済全体が右肩下がりの動きとなっています。

○全業種の今期売上DIは、前期比で△51.9（前期調査3.7）と前期の改善から一転、マイナスへと大きく落ち込んでいます。前年同期比では△44.4（前期調査△25.9）とマイナス幅が拡大しています。来期売上見通しDIも今期比で△56.0（前期調査△59.3）とマイナス幅はわずかに縮小していますが、引き続き厳しい状況を予測しています。

業種別景況調査の主要DI

1、建設業

・今期業況DIが、前期比で0.0（前期調査△33.3）、前年同期比も0.0（前期調査△33.3）と、ともに改善傾向。また、今期売上DIは前期比で0.0（前期調査0.0）と同水準を維持しましたが、前年同期比は△33.3（前期調査0.0）と減少しています。

- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 66.7$ ）、売上見通し DI も $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 66.7$ ）と、ともにマイナス幅が大きく拡大しています。この結果が示す通り、来期は非常に厳しい見通しとなっています。

2、製造業

- ・今期業況 DI が、前期比で $\Delta 42.9$ （前期調査 $\Delta 16.7$ ）、前年同期比でも $\Delta 57.1$ （前期調査 16.7 ）と、ともに大きく悪化しています。売上 DI で前期比 $\Delta 42.9$ （前期調査 0.0 ）、前年同期比でも $\Delta 42.9$ （前期調査 16.7 ）と、ともに減退の動きが見られました。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 66.7$ （前期調査 $\Delta 33.3$ ）、売上見通し DI は今期比で $\Delta 83.3$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）と先行きへの不安が広がっています。「海外シフトで国内生産が激減した」という厳しい声もあがっています。

3、卸売業

- ・今期業況 DI が、前期比で $\Delta 100.0$ （前期調査 0.0 ）、前年同期比でも $\Delta 100.0$ （前期調査 0.0 ）と、ともにマイナスに落ち込んでいます。売上 DI では、前期比で $\Delta 100.0$ （前回調査 50.0 ）、前年同期比でも $\Delta 100.0$ （前期調査 0.0 ）と、こちらも売上が伸び悩んでいることがうかがえます。
- ・来期業況見通し DI は、今期比では $\Delta 100.0$ （前期調査 0.0 ）と悪化する見通しですが、売上見通し DI では今期比で 0.0 （前期調査 0.0 ）と、同水準で推移することを予測しています。

4、小売業

- ・今期業況 DI が、前期比で $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）と同水準で推移。前年同期比では $\Delta 44.4$ （前期調査 $\Delta 55.6$ ）とわずかにマイナス幅が縮小しています。売上 DI は、前期比で $\Delta 37.5$ （前期調査 $\Delta 25.0$ ）と再び悪化。前年同期比では $\Delta 44.4$ （前期調査 $\Delta 55.6$ ）とわずかながらマイナス幅が縮小、3期連続の改善となりました。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 37.5$ （前期調査 $\Delta 62.5$ ）とマイナス幅が縮小しています。その一方で、売上見通し DI は $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 37.5$ ）と悪化の見通しとなっています。

5、サービス業

- ・今期業況 DI が、前期比で $\Delta 83.3$ （前期調査 $\Delta 28.6$ ）、前年同期比でも $\Delta 83.3$ （前期調査 $\Delta 42.9$ ）と、どちらも3期連続の悪化となりました。

売上DIは前期比で△100.0（前期調査25.0）と大きく落ち込みましたが、前年同期比は△42.9（前期調査△42.9）と依然として低水準で推移しています。

- ・ 来期業況見通しDIは、今期比で△33.3（前期調査△57.1）とマイナス幅が縮小しています。来期売上見通しDIでは今期比で△28.6（前期調査△100.0）と、若干の持ち直しが期待されています。

設備投資動向

1、今期設備投資

全業種 設備投資を実施した事業所の割合は43.8%（前期調査14.3%）で、「建物」への投資の割合が最も高くなっています。

建設業 実施割合が50.0%で、「機械・備品」「車両運搬具」「OA機器」が同率で並んでいます。

製造業 実施割合が66.7%で、「建物」の割合が最も高くなっています。

卸売業 未回答でした。

小売業 実施割合が11.1%で、すべて「OA機器」となっています。

サービス業 実施割合が50.0%で、「建物」の割合が最も高くなっています。

2、来期設備投資

全業種 設備投資を計画している事業所の割合は17.4%（前期調査26.7%）で、「機械・備品」への投資の割合が最も高くなっています。

建設業 設備投資を計画している割合が25.0%で、すべて「土地」となっています。

製造業 設備投資を計画している割合が16.7%で、すべて「機械・備品」となっています。

卸売業 未回答でした。

小売業 設備投資を計画している割合が12.5%で、すべて「車両運搬具」となっています。

サービス業 設備投資を計画している割合が20.0%で、すべて「機械・備品」となっています。

経営上の問題点

全業種 第1位は「需要の停滞、受注減少」が65.4%と、6割を超えています。第2位は「単価の低下・上昇難」となっています。

建設業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、66.7%となっています。

製造業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、71.4%となっています。

卸売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、100.0%となっています。第2位は「新規参入業者の増加」、第3位は「金利負担の増加」となっています。

小売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、62.5%となっています。

サービス業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、57.1%となっています。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。